

Foreign Broadcast Information Service (FBIS) Daily Reports, 1941-1996

＜米国 外国放送情報部 日次レポート 1941年～1996年＞

米国政府が収集した世界各国の国内報道がデータベースに！



世界中の国々で日々発信された、自国内向けの報道の英訳を収録するデータベースです。本データベースに収録するレポートは、オープン・ソース・インテリジェンス（公開情報の収集）のための米国の政府機関 FBIS（外国放送情報部）が収集したもので、このレポートにしか記録されていない報道を多く含んでおり、20 世紀後半の世界各地の生の報道を知る上できわめて重要な資料です。

◆ 収録概要 ◆

世界各地に駐在する FBIS のエージェントが、現地の言語で発信された情報から重要なものを抽出し、これをすべて英語に翻訳して、テレックス（のちに F A X）で米本国に送信した日次レポートを収録します。

地域：北米以外の全世界 100 以上

年代：1941 年-1996 年

ページ数：約 3,300 万ページ

情報源：テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、通信社の配信するニュース、政治家のスピーチ、会議録、政府声明など、主に自国内に向けて現地語で発信された報道

言語：英語（日本語を含む 50 以上の言語から英訳された文書。一部に英語で発信されたものも含む。）

利用できる分野：現代史研究、地域研究、ジャーナリズム、政治学、社会学、軍事研究、法学、経済学など、ニュース情報を必要とするすべての研究にお使い頂けます。

（例）

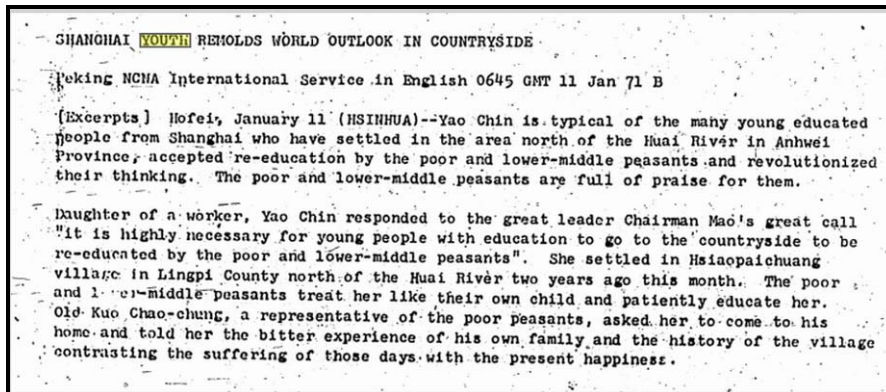
- ✓ 現代史上の重要な出来事を伝える同時代の報道を読む
- ✓ 国家・地域による報道内容の違いを比較する
- ✓ 文化大革命期の中国、冷戦期のソヴィエト、北朝鮮などで、国民に対して自国の政策や他国についてどのような報道がされていたのかを調べる
- ✓ イスラム原理主義や経済危機など、現代世界の潮流がそこに至った経緯を過去に遡って分析する

◆ FBIS(Foreign Broadcast Information Service、米国 外国放送情報部) とは ◆

第二次世界大戦中に、ナチス・ドイツのプロパガンダ放送を収集・分析するために発足したオープン・ソース・インテリジェンスのための米国政府の一機関です。戦後は CIA の一部門となり、最盛期には全世界に 33,000 人以上のエージェントを置いて活動しました。FBIS が日々収集・報告する情報は、とりわけ冷戦期に、世界のオープンな情報の最大の情報源として米国政府に活用されました。（当データベースでは、FBIS 開設当初の 1941 年から、インターネットの普及により 1996 年に活動を縮小するまでに作成されたレポートを収録します。）

◆収録記事例◆

(中国・文化大革命の下放運動)

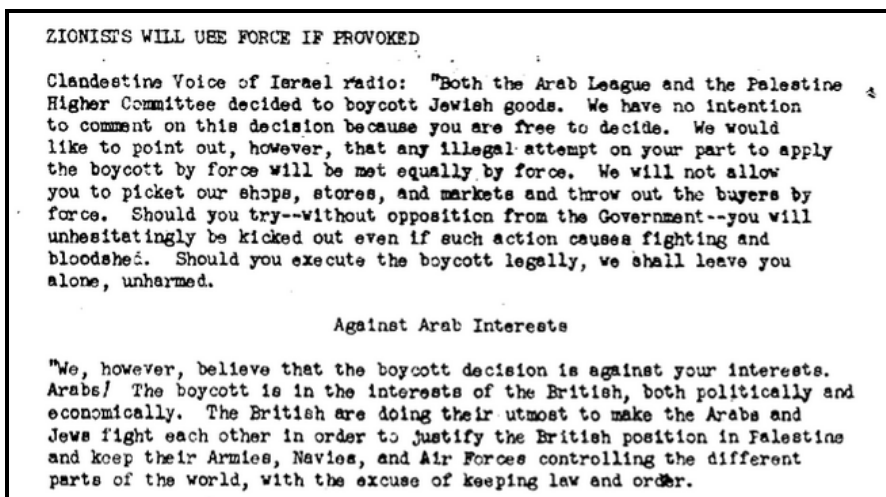


1971年1月、「農村で思想改造する上海の若者」

1月11日、合肥、新華社—Yao Chinは上海から安徽省の淮河北部に移ってきた多くの学生の一人である。彼らは貧しい中流下層階級の農民による再教育を受け入れ、自らの思想に革命をもたらしている。彼らにとって貧しい中流下層階級の農民は称賛的である。

労働者の娘 Yao Chinは、偉大なる指導者毛主席の「教育を受けた若者にとって、農村に赴いて貧しい中流下層階級の農民から再教育を受けることは大いに必要だ」という偉大な呼びかけに応えた。彼女は淮河北部の靈璧県にある Hsiaopaichuang 村に住んで今月で2年になる。貧しい中流下層階級の農民は彼女を自分の子供のように扱い、辛抱強く教育している。貧しい農民の代表である Kuo Chao-chung 老は彼女を自宅に招き、彼の家族の苦い経験と村の歴史を、当時の苦しみと現在の幸福との対比のうちに語った。

(パレスティナ・ユダヤ人の対外宣伝)



1946年2月、ラジオ・イスラエルの声「シオニストは挑発に対しては武力を用いる」(アラブ諸国及びパレスティナのユダヤ製品不買運動の決議に対する、アラビア語の呼びかけ)

…我々はこの決定に関してコメントするつもりはない。決定するのは自由である。しかしながら、お前たちが力づくでボイコットを実行するような違法な試みをすれば、同等の力をもって反撃されることは指摘しておきたい。力づくで我々の商店や市場を見張ったり、買い手を締め出すことは許さない。…もしもそのようなことを試みれば、たとえそれが戦いや流血に繋がろうとも、お前たちは躊躇なく追い出されるだろう。法の範囲内で不買運動を遂行するのであれば、我々はお前たちを傷つけない。

しかしながら、不買運動の決議はお前たちの利益に反することだと我々は確信している。アラブ人よ！不買運動はイギリスの政治的・経済的利益のためのものである。イギリスは全力をあげて、アラブ人とユダヤ人を互いに争わせようとしている。パレスティナにおけるイギリス軍の存在を正当化し、法と秩序を保つという名目のもと、陸海空軍を世界各地に駐留させ続けるためだ。…

◆ 検索機能 ◆

- 原文画像を収録、OCR（光学的文字認識）で全文検索が可能。PDF出力、印刷も可能。
- 日付時刻、情報源、発信地などを含む書誌情報を収録。
- キーワード、日付、国、情報源などを指定して検索が可能。※写真・図版はありません。

FBIS デイリー・レポートを構成するモジュール

1941年-1974年 (分売なし)	
A 1 1	全世界
1974年-1996年 (以下の地域ごとに分売)	
Region 1	中東、北アフリカ
Region 2	サブサハラ・アフリカ
Region 3	中国
Region 4	アジア、太平洋
Region 5	ラテン・アメリカ
Region 6	東ヨーロッパ
Region 7	ソヴィエト、中央ユーラシア
Region 8	西ヨーロッパ
補遺	1974年-1996年 全世界

価格

左図の「モジュール」ごとに販売致します。
それぞれ、データベース料金（導入時のみ）と、
サーバーアクセス料金(2年目から毎年)がかかります。

- ※IPアドレス認証、同時アクセス数無制限です。
- ※複数のモジュールを同時購入すると割引がございます。
- ※一部の国は、年代により収録される Region が異なります。
ご注意ください。(例・インド)
- ※個別にお見積りいたします。ご照会ください。

◆ 利用者の声 ◆ FBIS デイリー・レポートは全世界の 800 以上の機関で導入されています。

「ますますグローバル化しつつある世界に身を置く研究者や学生にとって、様々な国の歴史的・文化的パースペクティブを知ることは必須である。FBIS デイリーレポートは、歴史的な出来事を他国の立場から解釈しようとする者にとって、きわめて重要な資料である。…」

(イエール大学図書館 政府文書部門)

「…現地の言語で発信されたニュースを調査したくとも、多くの場合、研究者はそのために必要な言語をすべて使えるわけではない。FBIS デイリーレポートであれば、数十もの言語から翻訳された一貫して信頼できる英語で提供されるので、研究者は調査の範囲を広げることができる。FBIS デイリーレポートなしには、研究者は二次資料に完全に頼るか、自分が使える言語で書かれた一次資料だけを使って研究をしなくてはならない。また、たとえ研究者が特定の国の言語に堪能であっても、FBIS デイリーレポートの採録元となったニュースソースの多くは、図書館では導入しないだろう。…」

(ハーバード大学図書館 政府文書部門及びレファレンス部門)

提供元： Readex
A Division of NewsBank

日本販売総代理店：紀伊國屋書店

掲載の商品・サービスに関するお申し込み、お問い合わせは、株式会社 紀伊國屋書店 学術情報商品部
(電話:03-6910-0518、ファクス:03-6420-1359、e-mail:online@kinokuniya.co.jp) までお願い致します。

お預かりした個人情報、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaivo6.htm> に則り、取り扱わせて頂きます。